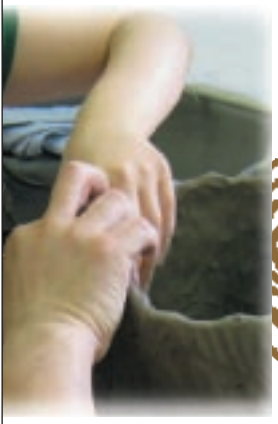
国立民族学博物館　公開シンポジウム

ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践

― 博物館から始まる「手学問のすゝめ」―



■ 日　時／2011年10月29日(土)・30日(日)

■ 会　場／国立民族学博物館・第5セミナー室

■ 定　員／100名(先着順)　[参加無料]

【申し込み方法】

「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践」と明記の上、以下の記入事項を添えてメール又はFAXでお申し込み下さい。2名様以上でお申し込みの場合は、各自記入事項を明記して下さい。10月中旬にはメール又はFAXにて参加の可否をお知らせいたします。

※応募者が多数の場合はご参加いただけないことがあります。

[記入事項]

①氏名　②連絡先電話番号　③メールアドレス又はFAX番号
④所属(任意)　⑤参加希望日

[宛　先]

E-mail：kokkyo@idc.minpaku.ac.jp

FAX：06-6878-8479

後　援：全日本博物館学会、日本博物館協会
日本ミュージアム・マネージメント学会

国立民族学博物館

●お問い合わせ　国立民族学博物館 民族文化研究部(広瀬) 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1　電話06-6878-8437
http://www.minpaku.ac.jp　E-mail：hirose@idc.minpaku.ac.jp

ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践

― 博物館から始まる「手学問のすゝめ」―

科学研究費プロジェクト「誰もが楽しめる博物館を創造する実践的研究」（通称「ユニバーサル・ミュージアム研究会」）は、09年度から各地のミュージアムで研究集会とワークショップを開催してきた。このシンポジウムは本研究会の成果を公開し、ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）の理論と実践例を提示することを目標としている。
一般にユニバーサル・ミュージアムを具体化するためには、二つの方法論がある。まず、これまで博物館から疎外されてきたマイノリティへの対応を検討すること（「for」＝○○への支援）。ついで、それらマイノリティへの単なるサービスという福祉的な発想のみでなく、彼らの知識や経験を積極的に博物館展示に導入すること（「from」＝○○からの発信）。
ユニバーサル・ミュージアムを創造・開拓する切り口は多様だが、とくに本シンポジウムでは「視覚障害者」を対象として、「for」「from」の両視点の有効性について議論したい。

【第一日】10月29日（土）

13:00～13:25　趣旨説明「ユニバーサル・ミュージアムとは何か」（広瀬浩二郎）
13:25～14:25　講演「壁を壊せ――縄文人、アボリジニ、そして視覚障害者」（小山修三）

■ セッション Ⅰ：「ユニバーサル・ミュージアム研究会の衝撃――各館の視覚障害者対応の現状と課題」

14:40～15:10　「“さわる”力が地域を変える――盲学校・県立美術館・三内丸山遺跡の取り組み」（増子正）
15:10～15:40　「湯浅八郎と民芸品コレクション――さわって味わう展示の魅力」（原礼子）
15:40～16:10　「やきもの、アート、コミュニケーション――触って“みる”こと」（三浦弘子・宮本ルリ子）
16:20～16:50　「人が優しい『市民ミュージアム』――年齢・国籍・障害にこだわらない交流の場として」（藤村俊）
16:50～17:20　「レプリカ展示の意義と限界――“さわる”ことで何がわかるのか」（鈴木康二）
17:20～17:35　コメント「視覚障害者の博物館利用――私の経験と研究から」（半田こづえ）
18:00～19:30　レセプション（レストランみんぱく）

【第二日】10月30日（日）

09:30～10:30　講演「フィーリングワーク入門――触学・触楽・触愕の体験的博物館論」（広瀬浩二郎）

■ セッション Ⅱ：「視覚と触覚の対話――目が見えない人たちの多様な学習方法」

10:40～11:10　「盲学校における社会科教育」（岩崎洋二）
11:10～11:40　「文化、歴史探訪の手がかりとしての“さわる絵画”制作の可能性――イタリアの取組に学ぶ」（大内進）
11:40～12:10　「さわれないものを理解するための技法――“さわる絵画”“さわる展示パネル”制作の立場から」（柳澤飛鳥）
12:10～12:20　コメント1「触覚でとらえる宇宙――触常者からのアプローチ」（小原二三夫）
12:20～12:30　コメント2「とらえ方と伝え方――見常表現者からのアプローチ」（安芸早穂子）
13:30～14:30　講演「梅棹忠夫の博物館経営論を継承・発展するために――国立民族学博物館とJICA 横浜海外移住資料館」（中牧弘允）

■ セッション Ⅲ：「目に見えない世界を触覚で探る――誰もが楽しめる触察展示の試み」

14:45～15:15　「触れる写真展の挑戦」（真下弥生）
15:15～15:45　「ニューヨークのミュージアムにおける視覚障害者の学びとエデュケーターの役割」（大髙幸）
15:45～16:15　「『さわる展示』の回顧と展望」（五月女賢司）
16:25～16:55　「子ども向け暗闇体験プログラムの教育的効果」（石川梨絵）
16:55～17:25　「ロビー展『仮面の世界へご招待』がもたらしたもの――さわって学ぶ展示の重要性」（大河内智之）
17:25～17:40　コメント「ハンズオンから手学問へ――博物館の新たな展示手法を求めて」（加藤つむぎ）
17:55～18:10　総括「博物館情報論から考えるユニバーサル・ミュージアム」（及川昭文）

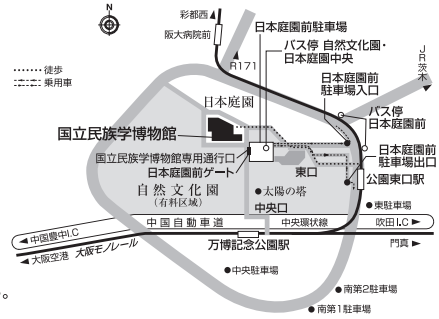
【シンポジスト一覧】

安芸早穂子	画家、イラストレーター
石川　梨絵	キッズプラザ大阪・プランナー
岩崎　洋二	筑波大学附属視覚特別支援学校・教諭
及川　昭文	総合研究大学院大学附属図書館・館長
大内　進	国立特別支援教育総合研究所教育支援部・部長
大河内智之	和歌山県立博物館・学芸員
大髙　幸	慶應義塾大学文学部・非常勤講師
小原二三夫	日本ライトハウス情報文化センター・点字製作係
加藤つむぎ	平和祈念展示資料館・学芸員
小山　修三	吹田市立博物館・館長
五月女賢司	吹田市立博物館・学芸員
鈴木　康二	滋賀県立安土城考古博物館・学芸課主任
中牧　弘允	国立民族学博物館・教授
原　礼子	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館・館長代理
半田こづえ	筑波大学大学院人間総合科学研究科・博士後期課程
広瀬浩二郎	国立民族学博物館・准教授
藤村　俊	美濃加茂市民ミュージアム・学芸員
真下　弥生	ルーテル学院大学・非常勤講師
増子　正	青森県立盲学校・教諭
三浦　弘子	滋賀県立陶芸の森・主任学芸員
宮本ルリ子	世界にひとつの宝物つくり実行委員会（滋賀県立陶芸の森）・コーディネーター
柳澤　飛鳥	彫刻家

国立民族学博物館

交通案内　国立民族学博物館は大阪・千里万博記念公園内にあります。

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車
徒歩約15分（茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが1時間に1本程度あります。
詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。
「日本庭園前駐車場」を利用されるかたは、「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。



博物館QRコード